

JAWIC WORLD

No.1, 8 January 2008

ロシア林業の課題について

過去 3 年間、ロシアの天然資源省は中央政府に対し 2 度にわたって国内の森林管理についての問題点を報告した。5 月末に同省のユーリー トルトネフ大臣は再度政府会議に報告書を提出した。その報告書の概略は次の通りである。

林業は森林利用の組織化、森林の迅速な更新、森林の保護、森へのアクセスの向上などにおいて責任がある。一方、林産業には高度な木材加工技術の開発と付加価値の高い木材製品の輸出増加の責任がある。林業は林産業に木材資源を含め木材加工の発展条件を提供しなければならないことは明らかである。

表 1. ロシア林業の主要指標 (2004 年 ~ 2005 年)

	'04 年	'05 年	'06 年	増加率 (%)
経済的に利用しやすい森林資源 (百万 m ³)	229	237	252	10
うち、収穫可能量 (百万 m ³)	178	184	190	7
森林更新 (千 ha)	734	758	821	12
林業収入 (10 億ルーブル)	23.8	28.1	35.0	47
森林の遠隔モニターリング (百万 ha)	-	53	101	90
森林、林業関係での違法行為に科せられた金額 (百万ルーブル)	-	280	336	20
森林認証面積 (百万 ha)	-	9.5	14.4	51

表 1 から分かるように、ロシアの林業は近年、森林の資源量、更新面積並びに林業収入のいずれも増加している。また、表 1 に挙げていないが、2004 年 - 2006 年の 3 年間で、針葉樹類の比率が 3.1%、長期の借地期限付き森林地の比

率が 1.5 倍増加し、航空・衛星モニターによる新しい森林の保護システムがロシアで導入されていることにより、森林火災による損失は 2004 年の 570 億ルーブルから 2006 年の 270 億ルーブルと約 2 分の 1 に減少した。

しかし、ロシア林業には以下のような問題が残されている。

- 森林管理システムの非効率性、非機能性
- 森林利用への不当な規制
- 森林資源情報の時代の遅れ
- 森林資源借入の手続き上の不備
- 森林管理に対する国家権力の過大な干渉
- 森林への投資魅力の低さ

以上のことが解決すべき問題として取られ、森林管理システムの再構築が必要とされた。こうした状況の中で、新しい森林法が 2006 年に採択され 2007 年 1 月 1 日より施行された。この新しい森林法には、森林利用の効率性を向上させる方策を見越している。それら方策には、森林利用タイプのリストを 7 から 15 に拡大すること、森林用地の貸出しを行うオークションを導入すること、輸送と林業作業のためのインフラの整備に山林地を使用することができること、新たな森林の分類方法を導入することなどが含まれる。

新森林法に基づき、2007 年 1 月 1 日より、森林管理の権限が地方へ移行され、森林管理権限の分散化を進めている。同法には、一連の課題の履行が必要とされている。

1. 林業分野における州政策を実現するための新法の骨子を作り出す。
2. 権限を林業企業並びに地方行政へ移譲する。
3. 新森林法を導入する必要な資金を調達することや、地方政府により採用される新事業の補助金を見込む。
4. 地方レベルの森林管理を監査する方法を導入する。

これらの課題の解決を図るため、以下の施策を進めている。

➤ 立法（法律）

71 の法律案（省令を含む）を承認する必要がある。このうち、政府

承認の必要があるとされるのは 26、ロシア天然資源省により承認の必要があるとされるのは 34 である。これまで、23 のものが政府へ提出され、うち 10 件が承認されている。また、天然資源省は 15 件の承認を終えており、残りは最終段階にある。このように、新森林法の施行により、関連法律の整備（新訂、修正を含む）は 2007 年 7 月 1 日までに完了するだろうと見られる。

- 森林管理権限を森林事業（企業）と共に地方行政へ移譲する。
1704 の林業企業が 16 万人の労働者と 350 億ルーブルの資産と共に地方へと移譲される。2007 年の林木伐採は 21 万 7 千の伐採エリアに配分されている。すべての地域で森林管理事務所が設置され、現在連邦森林機関も再編成された。

- 地方の林業に、2007 年に 100 億ルーブル、2008 年に 167 億、2009 年に 172 億、そして 2010 年に 178 億ルーブルを投じる。

（本稿は海外モニターからの原稿に基づき編集した。）